

海から海を学ぶ 07
「やはりPFDは、必須アイテム」



著者 内田 正洋

今年もまた夏がやって来た。梅雨明けする前から異常な高温が続き、時折40℃にも届くかのような温度の大気が日本諸島を覆っている。この暑さであるから人々は海辺や川辺へと出かけていく。そして海に入り、川に入り、溺水する人が後を絶たない。

もうすぐ8月になろうとしているが、今年になってすでに何人の方たちが亡くなったのだろう。子供たちもたくさん亡くなっている。日々水難事故のニュースが届けられる。ネットで「水難事故まとめ」と検索するとほぼ毎日のように水難事故が起こっていることが分かる。ニュースにならない事故もきっと多い。

もう何年になるんだろう？水難事故は決して無くならない。毎年ずっと一定数の人たちが水難事故で亡くなっている。それも海遊びや川遊びといった、遊んでいる最中の事故が多い。海や川に遊びに行き、帰りには亡くなっていた、なんてことは、とてつもなく悲惨だ。それが自分の子や親だったら、と思うとたまらない。

もう、水に近いところで遊ぶ時は、確実にPFDを着用すべきだ。いわゆるライジャケ（ライフジャケット）は、世界的にはPFDと呼ばれる。パーソナル・フローテーション・デバイスの略。個人用浮揚具と訳せる。PFDは、もう必須なのだ。カヌーでは当然のごとく着用する。

人は水にほとんど浮かないことが、今なお日本では理解されない。人は浮かない動物なのだ。浮いてもわずか2%程度がせいぜいで、肺にたまった空気が抜ける（吐き出す）と、当然浮力が足りなくなって沈む。鼻と口を出すのが精いっぱい、助けを呼ぼうと叫んだら肺から空気が抜けて沈んでいく。と、理解しておくべきだけど、ほとんど理解されていない。何度も書くが、人は浮かない動物なのである。

カヌー遊びというのは、水遊びでもある。シーカヤックの場合は海遊びともいえる。本来「遊ぶ」という言葉には「日常的な生活から心身を解放し、別天地に身をゆだねる」という意味がある。広辞苑にそう書いてある。つまり水や海の世界で遊ぶことは、別天地に身をゆだねるわけだから、陸の世界とは別世界にいることになり、陸の常識が通用しない。そして別天地に身をゆだねるのだから、旅をするといった行為に通じる。遊ぶことは別世界を旅することと考えてもいいと思う。だから、シーカヤックによる海遊びは「海旅」ということにもなり、シーカヤッカーたちはそう考え、そう呼んでいる。

カヌー遊びをする人は、全員がPFDを着用しているといっている。別世界で遊ぶわけだから、そこは人が普通には生きられない世界。だからこそ確実にPFDを着用して水世界へ旅立つ。

ということは、水辺で遊ぶ時にもPFDの必要性が出てくる。人は浮かない動物だから浮くための浮揚具、つまりPFDを着用して遊ぶのが必須となる。だからカヌー遊びをする人たちは必ずPFDを着用している。

PFDとライフジャケットの違いも知っておこう。PFDとは浮揚具全体を意味している。ライフジャケットはその一種。他にもボイアンシーエイドと呼ばれるPFDがある。浮力補助具。水遊びにはこのボイアンシーエイドを使う。カヌー用PFDは、この浮力補助具。つまり水遊び専用のPFD。水遊び用PFDは、一般的にはアウトドアショップで売っている。カヌーもまたそうだ。子供を連れて自然の中で水遊びをする時は、アウトドアショップでPFDを探すといい。子供用の水遊び用PFDが必ず見つかる。まだまだ今夏は続く。（2023年7月下旬、記す）